



白川風土記
越後郡
羽子部

二

JL 4
317
2



呂門
號 317
卷 2

白川風土記卷之十六

越後國之部之二

羽郡鶴川庄鏡之郷

大窪村

陣屋ノ在所ノ地十ノ村ノ家並西側ニ相列ス

柏崎ノ町並十ノ東西四丁餘南北二丁餘戸數百

十八軒開葎ハ何ノ年代ト云丁ヲ知ラズ往昔

警尾大納言ト云人ノ領地十ノ鐘倉ノ代ニハ大

國修理大輔ト云者領也ト云十ノ按ニ北越ノ太平

行カ孫三郎賴連初ニ越后ノ大國ノ保ヲ領知ニ



代々相傳 南北朝ノ北新田ノ一門里見鳥山ノ人
トアリ 領地ナリシカ 南朝衰ヘ足利家ヘ属シ貞治
年中当国殘ラズ上牧左近將監憲榮ヘ玉ハリ永
臣宇佐美駿河守 同郡批杷ノ領地トナル 永祿七
年宇佐美家絶ヘテ春日山ノ本領トナル 慶長五
年中納言景勝奥州会津ヘ移封其迹ヲ大塚助右
衛門桑原勘右工門ト 兩人豊臣家檢地早入アル
堀久太郎秀政ノ領地トナル 慶長十五年ヨリ松
平上總介忠輝卿元和二年ヨリ酒井元工門尉元
和六年ヨリ松平伊豫守寛永元年ヨリ松平越后



守天和元年ヨリ脚料所寛保二年領地トナ
ル 四至ハ東ハ批杷島村ハ 西ハ地塚迄五丁斗鶴
川ヨリ以テ界トス 又西ハ中濱村ヘ家流キ南ハ劔野
村ハ 八丁斗北ハ柏崎町ヘ 鶴川ヲ隔テハ家流キ
也 村中北陸道ノ道筋ナリ 鑄冶ヲ業トスル民數
椽アリ 高札場トシテ 高札場トシテ 高札場トシテ
高札場トシテ 所城村トシテ 東端トシテ 右側トシテ
官アリ 令セリ 所及校條目ヲ掲ク 殿様御林儀
堤五ヶ所ニ 田山沢ノ出水ト共ニ合セテ三百

三十石餘ノ田地ニリ、

諏訪社

社家 劔野村五十嵐出雲

村内ノ南ノ方山ニ傍レリ所ニアリ劔野村ノ

三島明神ノ末社ニテ天永元年ノ勧請ナリト云

フ村ノ鎮守ナリ社地平地ヨリ高キ丁四間斗

社 七尺四方

拜殿 三間ニ二間四尺

鳥居 高ナ九尺幅七尺

西光寺 境内十一間

村ノ東端ニアリ本ハ時宗ニテ同郡横山村ニア

ト改ニ山ヲ青横山ト云フ院ヲハ曼陀羅院ト

云フ今小京師智恩院ノ末山ナリ開基ノ年曆ハ

詳ナラズ応仁元年浄土ノ僧則阿ト云者ヨリ以

カタ浄土宗トナシ二代目发別ト云僧智恩院ハ

移住ノ後舊地ノ好ニテ和州雷麻ノ曼陀羅院ハ四

分ノ一竹布味眞ニ曼陀羅院ト云院号ナリト贈

リタルヲ宝物トス永正年中今ノ地ハ移レ

客殿六十間ニ十二間板葺本尊阿弥陀木佛座像

長ク一尺五寸作者詳ナラズ其申ヨリ出現ノ古

佛ナリト云傳フ間蓋蘇所ト云又奇附ノ山ニ

雷麻
ナラシムル



呂
門
蹄
卷

庫裡 六間ニ九間萱茸

五柱稻荷社 九尺四方寺ノ鎮寺也

大聖院 境内五間ニ

村ノ東端ニアリ真言宗ニテ柏崎町明藏寺ノ末

院ナリ寺元和ノ頃一度廢額ノ記録皆失之夕

室保實保カ
今元ノマ

ハ開基ノ事詳ナラズ寶保年中大聖院ノ舊地十

ルヲ以テ是時ノ御預リ上牧野民部少輔ニ乞ヒ

延享元年ニ至テ教慈ト云フ僧再造ス

客殿 七間ニ五間萱茸本尊不動木佛立像長ク

二尺

庫裡 二間ニ五間萱茸

洞雲寺 境内十八間

村ノ東端ニアリ曹洞宗ニテ同国頸城郡天林寺

村ノ轉輪寺ノ末寺ナリ山ヲ宝龜山ト云フ古ハ

山寺真言宗ニテ今ノ寺ヨリ南ナリ山ノ上ニ在

テ住僧五世ハカリテハ其テ退轉回タリ延徳年中

丹波国圓通寺二代正欣ノ弟子雷庵ト云者頼隆

ヨリ起テ再造ス後テ宇佐美駿河守枇杷島ニ居城

ノ時僧祖廓ハ歸依ス今ノ地ハ寺ヲ移テ山ヲ平

テ今ノ門前ノ路ヲ通テ牌所トス又寄附ノ山ニ

宇佐美家ノ臣長尾五郎治ト云者剎後之庵ヲ結
ヒ生涯閑居之遺言ノ藥師ノ像ノ行嚮ト山林ト
ヲ寄附ス五郎治或名ヲ天永元高庵主ト云ヒ之
故ニ今モ山ヲ元高山ト唱テルトナリ
客殿 六間ニ九間萱葺本尊阿彌陀木佛座像
長ク一尺五寸行基ノ作ト言傳フ
庫裡 五間ニ八間板葺
禪堂 五間四方
極樂寺 境内東西二十六間
南北二十間
村ノ東二丁ニアリ浄土宗ニテ山ヲ宝篋山院ヲ

安養院ト云フ京師智恩院ノ末山ナリ怡ハ真言
宗ニ行嘉祥二年高野山ノ学僧羽州湯殿山參詣
ノ折力テ此地ニ留リ以極樂寺ヲ造営スト正安
二年二浄土宗ノ僧友阿ト云フ僧住セシヨリ宗
旨改メトナリ往古真言宗ノ時大ナル宝篋塔
ノ有リ之故ニ山号ト成シ失ヒテト也
客殿 十間ニ十二間本尊阿彌陀木佛立像長
三尺奥ノ御小言傳フ
庫裡 六間ニ三間
鑄物師 新

新兵工先祖ハ大窪何某トテイッノ比ヨリカ
 地ニ住シ年代モ詳ナラス中古ノ先祖ハ大内家
 ノ落人トアレハ天文年中大内家隆盛
 時ニヤ兵工尉藤原正貫ト云者当国ニ到リ歌
 枕ヲ業トシ日ヲ送りシヨ大窪家ノ智トシタリ
 曰人外ニスキハイナク人ノ為ニ歌ヲ讀ミ其價
 ヲ得テ世スキトセニ故ニ氏ヲ歌代トシ喚ク
 ヲハ鑄右ヲ業トスルハ天福年中ヨリノ事ナ
 利トゾ
 安永所藏文書三通
 未以テ其書ニ
 其書ニ

細工之為辛勞分内歎

分中ある利 諸役行り止

出之於河村ニカケル物之儀

正女在り跡之石之何の所

天正六年

改修



六月十五日

交代印の旨

今夏就安陸子細
在申の向後大鐘於
仕山ハ古工斗の為に
為海龜ノ状如形に

交代印の旨

女如伴

交代印

永禄六年閏五月

政系

西光寺

古工印

梅樂寺

地頭印

於何事、日乞

上可於可致

考之為得自

神田法印

馬山寺

信吉

古五部兵衛殿

系

按上川二始ノ文書ニ乃ハ政勝ハ上枚政勝トテ

宇佐義家ノ跡ヲ継キ同郡枇杷島ヲ領セシ人ナ

リ琵琶島村ノ部ニ天出ノ刺額夏秋ハ陸ニテ網

釣ヲシテ免除地ニテテテテテテテテテテテテテテ

西光寺、大聖院、洞雲寺、極樂寺

町ニ家集、西ノ下、村ノ家集、東南ハ大窪村、
家集、北ノ海岸、古領主ハ柏崎ニ同シ村

中北陸道大街道ナリ

諏訪社 社地六間 三尺ニ

社家 剱野村 五十嵐出雲

村ノ内ニアリ 勸請ノ年代詳ナラズ

社 石ノ小祠 ナリ

勝願寺 境内十九間 二十四間

村内ニアリ 浄土真宗ニテ 山ヲ大藤山ト云フ 京

師果本願寺ト末山ナリ 由緒ハ

後花園院ノ北面ノ侍大藤道信ト云者 蓮如ノ弟子

トナリ 延位中西願坊ト改メ 其後天正二年頭如

ヨリ大道山勝願寺ト云フ 山号寺号ヲ授リ 大坂

ヨリ当国鏡ノ條村ト云処ニ 移リ 又羽州米沢ニ

移リ 夫ヨリ此地ニ 表ル下言傳フ 其轉移セシ次

弟ハ詳ナラズ

立置屋 客殿 十間 四方 萱葺本尊 阿弥陀佛 木佛 坐像 長

ケ 二尺 四寸 五分 作者 詳ナラズ

庫裡 七間 三尺 二十五間

塔頭 徳勝寺

村

川羽郡荆川庄鏡之郷
予仲朝睦表
下宿村
相崎陣屋ヨリ西
岨ニアル村
數二百二十五軒
南ハ蘇波村
ナリ領主ノ次第
漢獵ノ業ヲ專
村談間ヲ流ル

川羽郡荆川庄鏡之郷
予仲朝睦表
下宿村
相崎陣屋ヨリ西
岨ニアル村
數二百二十五軒
南ハ蘇波村
ナリ領主ノ次第
漢獵ノ業ヲ專
村談間ヲ流ル

一端ニテ海入ハ幅六尺斗ハ小流ナリ小魚色
白ク白魚ニ類ス捕テ食ス佳也上川ノ故一各ヲ
ノホリ
ト云

船掛洞

村ノ北ニアリ海底礁石ナリ船ヲ繫ヘテ洞ニ箇
所アリ其大者ハ四方百間餘深サ五尺ヨリ一丈
斗マテ其小者ハ四方十五間餘深サ七尺ヨリ八
尺マテ春後ヨリ秋半迄汎浪ノ穏ナル間ハ諸國
ノ舟船多ク集ル

諏訪社

社地五間
四間三尺

村支配

村ノ西一丁ニアリ昔木曾多仲朝臣当國ハ兵ヲ
出シ切取ラレシ時信州ヨリ勸請アリト云
社ニ間ニ三箇境内十八別當柏崎妙行寺
村ノ西一丁三十間ニアリ社元ハ八幡ナリ
僧日蓮佐渡ノ遠誦赦免アリテ元久十一年三
月八日一岨ニ漂着ニ改メテ三十番神ヲ祀ル
トナリ近郡ノ者崇敬ヲ致メ參詣群集スル地ヨ
リ北海ヲ目下ニ見佐渡能登ノ山々ヲ回シ見ル
ハ之頗ル勝地也

堂 東西五間 三尺南北六間 八幡長八寸 其外世
九體長四寸五分
庫裡 四間 二六間
鳥居 二基 一基ハ高廿二間 三尺幅 一丈一基ハ
高廿九尺幅七尺
蝦夷塚
村ノ東南二十間斗ニアリ 土ヲ高ク築キ揚リ
地ニテ昔蝦夷蜂起ノ処マテ攻上リテ此セシ
跡ナリ 又三傳ノ故跡トモ云フ 晴新テリ
此ノ西有明ノ浦 昔木曾守林原守武風ノ兵

当村ノ北ヨリ東ニ見渡タル海岸ノ地ヲ有明ノ
浦ト唱フ 誰人ノ讀ミ歌ニヤ 土人ノ口碑ニ

浪ノ色ニ有明ノ浦ノ末見テ 汐瀨モ白リ 残ル月影

按ルニ 日向宮船郡ノ内ニテモ 其海ノ地ヲ有明

ノ浦ト唱ヘ 和歌ヲモ 糸ノル也 然ル 頸城郡ノ

采山ノ有明ノ浦ト云フ 糸ノル也 然ル 頸城郡ノ

ノ浦ト云フ 糸ノル也 然ル 頸城郡ノ

ノ浦ト云フ 糸ノル也 然ル 頸城郡ノ

ノ浦ト云フ 糸ノル也 然ル 頸城郡ノ

ノ浦ト云フ 糸ノル也 然ル 頸城郡ノ

ノ浦ト云フ 糸ノル也 然ル 頸城郡ノ

ノ浦ト云フ 糸ノル也 然ル 頸城郡ノ

ノ浦ト云フ 糸ノル也 然ル 頸城郡ノ

ノ浦ト云フ 糸ノル也 然ル 頸城郡ノ

ノ浦ト云フ 糸ノル也 然ル 頸城郡ノ

ノ浦ト云フ 糸ノル也 然ル 頸城郡ノ

ノ浦ト云フ 糸ノル也 然ル 頸城郡ノ

ノ浦ト云フ 糸ノル也 然ル 頸城郡ノ

ノ浦ト云フ 糸ノル也 然ル 頸城郡ノ

ノ浦ト云フ 糸ノル也 然ル 頸城郡ノ

ノ浦ト云フ 糸ノル也 然ル 頸城郡ノ

ノ浦ト云フ 糸ノル也 然ル 頸城郡ノ

ノ浦ト云フ 糸ノル也 然ル 頸城郡ノ

ノ浦ト云フ 糸ノル也 然ル 頸城郡ノ

ノ浦ト云フ 糸ノル也 然ル 頸城郡ノ

ノ浦ト云フ 糸ノル也 然ル 頸城郡ノ

ノ浦ト云フ 糸ノル也 然ル 頸城郡ノ

鯛 鰯 鯖 鱈 鰒 鮒 鮓 大魚 鮫 鰺
 雪海苔 テン草 イコ草 若和布 栄螺
 杜蠣 イガイ

山林に其の... 新田... 柏崎... 地... 所... 百... 回... 為... 八... 岩...

川羽郡龜川庄鏡之郷

比角村 比角村 比角新田

柏崎陣屋ヨリ丑寅ノ方三十丁ニ至リ海邊ノ
 地ニ下ル村里十丁東西十五丁南北二丁柏崎ノ
 所統ニ有人家皆町家ノ如ク西側ニ列ス戸數二
 百八十六軒ハ内十軒ハ本村ニ百七十六軒ハ新
 田ナリ本村新田下名ハ分レタレ氏實ハ一纏ニ
 為リタレ故ニ其也録ニ新田ヲ別ニ託カレ西至
 ハ東ハ長濱村ハ南ハ西ハ柏崎ハ所又田中南ハ
 岩上村ハ五丁北ハ安坂内藏助知行所春日村ハ

十三丁地界イツシモ入交り村ノ起リハ詳ナラ
入東鑑文治年中関東卿知行越后國庄園ノ内ニ
比角庄穀倉院領トアリ是ニヨシハ古ハ一庄ノ
名ニ在ニテ何レノ時ニ庄名ヲ失ヒシヤ今ハ
上人モ知スナリ又古領主大概柏崎ニ曰シ只縮
葉丹後守領以下元禄十四年ヨリ所科所寛保二
年ヨリ当領トナレタ所ナク異同アルノ事
高札場一ヶ所ニ新田ノ内西ノ端柏崎ニ地境ニ
アリ
官口以令セラレタ旋條自ヲ掲リ

堰

次目村長濱村二村ノ地ニ石川藤井堰村ノ
部ニ支流ヲセキ養水ノ堰高岡一文幅四間
餘林鏡林鏡ノ事為井八通ノ当村ヲ去ル丁七百
八十五間ノ隔以テ上ノ谷ニ傳テ云傳同是ト云
山王社地一同本尊地村支配像
村ノ東一丁ニ下リ村ノ鎮守ナリ祭日ハ三月二
十日九月二十日也
社 六尺ニ五尺
拜殿 二間二尺四方

鳥居 高一丈一尺 幅七尺五寸

神明宮

社地十五間

村支配

村ノ北一丁ニアリ鎮座ノ年代詳ナラズ祭日ハ

三月二十日九月二十日

社 三尺ニ六尺

拜殿 二間ニ二間三尺

鳥居 高一丈一尺 幅七尺

護摩堂

境内東西二十九間
南北四十二間三尺

村ノ北十間斗ノ隔ツト郡柏崎町真言宗明藏寺

ノ僧未住ス

堂 六間四方本尊延命地藏木佛座像長々五尺

五寸

庫裡 七間ニ五間

地藏堂

境内東西九間
南北十八間

村ノ内ニアリ禪宗ノ僧正傳ト云僧開基ト云

堂 四間三尺ニ五間本尊地藏石佛立像長々三

尺眼土三十三體觀音像長短同トカテ不齊也

庫裡 二間ニ五間三尺

真光寺

境内東西二十六間
南北二十間

村ノ西十丁斗ニアリ淨土宗ニテ山ヲ清淨山ト

云フ曰郡八窪村極樂寺ノ末山ナリ由緒ハ極樂寺ノ中興友阿ト云僧ノ開基ニ正安二年ノ草創ナリト云フ

客殿 五間ニ六間本尊正觀音木佛立像長ク三尺古昔曰郡中濱村ノ海庭ヨリ出現ノ靈像ト云傳フ

庫裡 三間ニ五間

阿弥陀堂 境外東西二十間南北二十一間

村ノキ東ノ方ニアリ曰郡柏崎町浄土寺ノ弟子見沢曰云者草創也

且郡八窪村

客殿 三間ニ五間本尊木佛立像長ク二尺九寸八分慈覺ノ作本比叡山ニ安置シタリシカ永觀二年比叡山上大夢想ノ告アルヨリテ江州蒲生郡日野菴川孫左エ門ト云者ノ家ニ安置シ且郡寺大聖寺ニ遷シ年ヲ経テ見沢雪夢ヲ慮ノ具申ヲ語ルニ住持モ雪夢ヲ蒙リタリトテ左右十ニ像ヲ渡セシコトハ菴へ安置シ毎年正月七日十五日ニ開帳

庫裡 二間ニ四間

胎藏院 境外東西十五間南北十五間

村ノ東一丁斗ニアリ修驗宗当山派宗師三空院
ノ末山ナリ開基ハ奥州福嶋ノ山伏大學ト云者
天正十九年当村ニ住之院号免許ヲ得テ建立ス
護摩堂 一間四方本尊不動木佛立像長ケ八
寸

庫裡 二間 三尺ニ五間

免除地

山王社 神明宮 地藏堂 真光寺

本村ニ在リ本村ニ在リ本村ニ在リ本村ニ在リ
本村ニ在リ本村ニ在リ本村ニ在リ本村ニ在リ

羽郡 鷓川庄鏡之郷

枇杷島村 柳橋

柏崎陣屋ノ卯辰ノ方三丁餘ニアリ鷓川ヲ挾ミ
村居ハ村長ヲ東西二丁南北十七丁餘戸數百二
十八軒四至ハ東ハ御料所半田村ハ二丁西ハ大
窪村ハ八丁地界鷓川畔ニ三丁斗南ハ劍野横
山ニ圍村ハ家録キ北ハ柏崎町ハ家録キ始ハ里
見鳥山ノ領後上村ノ臣子佐義丸馬助ヨリ駿河等
迄行マシテ四代ヲ経テ迄行忠死シ其家絶テ後上
村政勝ハ村ノ墾ニ居ル慶長三年中納言景勝貞

州会津へ移封其跡ヲ大塚助右工門桑原甚右工
 内藤地穿入ア〜堀久太郎秀政領地ノ慶長十五
 年ヨリ松平上総介忠輝卿元和二年ヨリ酒井左
 工内尉曰六年ヨリ松平伊豫守寛永元年ヨリ松
 平越後守天和元年ヨリ伊科所貞享三年ヨリ箱
 葉丹後守元禄十四年ヨリ戸田能登守正徳元年
 ヨリ当領トナリ此把島又琵琶島ニ依ル
 古文書ニモ琵琶ニ依ル
 村ノ内ヲ流ル内幅三十間源委ハ柏崎ノ部ニ詳カ
 二ノ内保領川五箇之候

金曲輪橋

山是録
 村ノ中程ニアリ是橋ハ昔ハ村ノ城通路ノ為ニ
 架シタル故ニ今ニ其時ノ例ヲ追テ郡中ヨリ著
 請メ金曲輪ト云名モ昔郭内ニ在リ地ナルニ
 鴉川ニ架ス板橋長十三間三尺幅六間

養水

村ノ東ノ方一里ニアリ所科所半田村ノ地内ノ
 佐藤池ノ流ヲ引テ高千八百石餘ノ田所ハ灌リ

鼠堤

村ノ北ノ方十丁斗北角村ノ地ニアリ此水ヲ以

千高五百石餘ノ田所ヘリク

鶺鴒川神社

社地東西八十二間
南北五十四間

社家 布施但馬

村ノ内ニアリ式内ノ鶺鴒川ノ神社是ナリ社家ノ
傳フヘ所ノ田結ニ鶺鴒草葺不不命日向ノ國ヨ
リ大亀ニノリ口國ニ到リ玉ヲ時ハ川ニ鶺鴒ノ子
ヲ集テ魚ヲ食テ命常ニ鶺鴒ノ鳥ヲ愛ヒ玉ヲ故
ニ心処ニ暫リ止リ在ヤシ故ニ土人尊ミテハ社
ヲ造立ニテ祀リ奉リ又凡陀別ノ命ヲ合セテ社
ル是鶺鴒川神社ナリ因テハ川ヲ鶺鴒川ト名付ケハ

社祀傳今
元ノミ

ホトリノ縣ヲ鶺鴒川ノ縣ト云テ後鶺鴒川ノ庄トハ
改メシ也太神騎玉ヒシ亀ノ住セシ処今深淵ト
成テ社ノ西ニテアリ亀河ト云テハ処今モ泉
磐弓ト云テ又太神ハ水曲ニ座セシ時龜宮ノ
豊玉姫命ヨリ雌雄ノ亀ヲ鏡奩ニ入テ獻セシ故
ニ鏡ノ郷ノ名起リシトナリ按トハニ古ノ郷名
ナリ一載リルテ不其後ハ幡ヲ合セテ勸請ス具由未
知弘仁二年八條殿ト申ス人近江國ヨリ當所ヘ
来リ棟ニニ生國筑前八十七ハ箱崎ハ幡ヲ堂社
ト合セ祀ル元弘ノ乱社壇悉リ破敗ス応安元年

二月宇佐義左馬助祐益伊豆同ヨリ来リ今ノ館
跡ニ居テ兒門守獲神ト奉敬ノ宮殿造立ニ代々
修覆ヲ加フハ永正五年八月十七日春日山ノ城
主長尾為景参詣アリテ小櫻成ノ鎧弓矢馬太鼓
奉納セラレ目筆ニテ三十六貫ノ地ヲ寄附ス天
文二年為景赴中國へ出陣宇佐義氏モ從行ス其
間ニ伺ヒ叛逆ノ臣集リ頓城郡ヲテ乱入所々放
火不当社悉ク焼失為景帰國ノ当社へ参詣國中
静謐ノ願文ヲ捧祈誓テ天文三年當城主宇佐
義越中守孝忠ニ下知シ宮殿烏居ニ在ルヲテ造

立入 按ニ宇佐義孝忠ハ永正四年二月五日
ノ事 撰リテハ且孝忠ハ為景ト曰ク上
存能ニ任テ孝忠存命ノ間ハ為景モ憚リテ上
社家ヲ伺フ心モテカリニ程ノ事ナリト云
君臣ノ様ニシテハ社家ノ後ハ誤リテハ
ハ永祿三年輝虎ヨリ社内ニ制札ヲ立ラハ同七
年四月宇佐義氏亡当社モ衰微ス天正四年七月
二日上社七郎政勝北越軍祀上社五人ト曰ク
参詣神領相違ナリ寄附シ宮殿連々修造ノ判物
アリ同六年謙信逝去神領減少又同十四年藤田
能登守信吉参詣百五十三束刈ノ地寄附ノ状アリ
ハ後領主代ハ寄進等有元文四年二月二十二日

火災ニ遇テ神室始メ皆失亡ス惜ムトシ境内大
 木数百年ノ物茂リ古キ社地ト見テ夕リ祭日ハ
 二月六日ヨリ十二日マテ
 本社 三間 四方勾欄ヲキ
 幣殿 二間ニ三間
 拜殿 四間ニ五間
 額 鵜川神社ノ文字ニ二位吉田良延卿ノ筆
 鳥居 二基 一ハ高廿二間幅二間 一ハ石三ノ高
 一丈幅一丈
 齋神社 小祠末社ナリ祭日ハ正月十五日
 小祠末社ナリ祭日ハ三月廿七日

稻荷社 小祠末社ナリ祭日ハ二月初午
 諏訪社 石ノ小祠末社也祭日七月廿七日
 道祖神 石ノ小祠末社ナリ祭日三月廿日

所藏文書

新澤郡

羽那 既巴 崎之 小社之
 拾ノ多クシ地永代チ多クシ
 変也神前ニ端性極可

陵新念者如何矣件

亦二五年

月十七日

為京紙

列羽部深恩賜之八社文

指ハ西ノ地水代寄進ノ

處也仍如件

亦二五年

月十七日

白紙

就軍役已上地ハ情同儀

乙右放由所ノ無指ハ此儀

新三之三

新なるあしむに於ては古くは社位に在り
出候地お遠き所ありては之より
大なる中し如件

丁酉四年

四月

政務



各々

場三之三

千羽此場百々新参此列

此年冬儀以外

天三十四月下書

三三

信吉

七也



新

楓

中三之三

新羽那禰河庄儀討之書

氏部八社神領

今石部八社比百七拾肆

十代比百九拾伍文。

一〇月十日 道原大膳助

久家守

九

九田源丞

壬辰月十日

如也序

道

八社方支の旨

石文書中ノ人物ノ景ノ事諸書多ク載タレハ

二記ヲ入信吉ハ藤田能登守ノ事
國藩翰譜ニ信吉ノ臣タリシカ天正十年淺川大也
將監ノ教代ニ賦テトテリ後ニ
所当家ノ奉仕ニ

福泉寺

境内南北二十間
東西十八間

村ノ北邊ニリ法華宗ニテ山ヲ常在山ト云フ
意師妙覺寺ノ末山ナリ大永十一年日蓮依州ノ
遠流ヲ免カシ鎌倉ノ歸途ノ時天台ノ僧常在场
ト云者ハ枇杷島村ニ菴ヲ結ビ在シカ日蓮一歸
依ニ福泉日舟ト改名シ山号寺号トシ後一度菴
跡廢シタリ嘉慶元年日聰ト云ノ僧中興ノ今ニ

至ル
客殿八間ニ七間本尊釈迦多宝木佛座像長々
八寸夫文十一年ノ開眼ナリ作者不詳

庫裡八間ニ三間三尺

三十番神堂四間四方

行通寺

境内東西十二間
南北三十五間三尺

村内ニアリ浄土真宗ニテ山ヲ光立山ト云フ京
師東本願寺ノ末山ナリ文明年中天台宗ノ僧法
教ト云者能登國ニ在ケルカ蓮如ノ説法ヲ聞キ
改宗ノ当國蒲原郡加茂下條村ニ移リ其後法惠

ト云僧ノ代天正八年今ノ枇杷嶋村ニ從リ一寺
ヲ造立ス

客殿 八間 三尺ニ八間本尊阿弥陀木佛座像長
ケ二尺三寸

庫裡 十間ニ五間

鐘樓門 一間四尺ニ一間三尺

門前家 戸數三軒

古城塙

村數西五町ニカリ音ハ三嶋郡ノ御館ト唱フ弘

仁ノ頃ハ八條ト云フ人ト一所ニ住セシト云傳フ

按ニ八條殿ノ事詳ナリト北越軍談ニ曰郡上條

ノ上條定定ノ先祖京都八條ニ居テ八條ヲ稱ス

トヤシ事アリト地ノ上條ト稱ス

ト上條ノ鐘タリト地ノ上條ト稱ス

トハカヲス又弘仁ノ頃ト稱ス

ト部ニ合セ應安元年伊豆ノ守佐義丸工門秀満ノ

弟守佐義丸助祐益殿トモ名乗ル神孺子伊豆守

定秀ト地ニ城居ハ伊豆守ノ部ニ所ニ載シ又事同越

中守方忠ハ伊豆守定秀ノ名跡ヲ継キ伊豆ヨリ

ト地ニ来ル北越太平記ニ曰人ノ事ヲ記メ沈毅

ト云テ文武ノ才アリ忠義大節ヲ旨トシ主君上

校房能ヲ守立一日ヲ忠義ノ為ニ肺肝ヲ不吝ト

云了十長尾為景天是ヲ忌憚リ謀叛スルヲ延
引之孝忠カ死ルヲ待テ逆心セニト時節ヲ待ツ
孝忠ハ智才アリハ為景叛相アルヲ見テ密ニ
房能ニ告ケ時節ヲ以テ為景ヲ誅セニト存ル所
ニ永三四年二月五十七日ニテ病死ス法名竹漢
菴主立林
公難梅花無尽藏雞助齋并序ト云下ニ昔曹孟位
只劉備對壘欲弃之而去茂令云雞助也幕下無識
者獨王脩曰雞助弃之可惜嗟之無所得孟位遂歸
矣越之役州守仇養之孝忠公顏其齋曰雞助不拘
孟位ノ故事只取無可並不可之義而已詩云鯨魚

多肉鹿多脂乘輿割雞蛋報時無可况猶無不可天
然味主人知ト見工嫡子駿河守定行嗣ヲ居ハ
永祿七年四月定行信州野尻ニ於テ長尾政景ト
其ニ祀ニ沈ミシ後定行生涯ノ軍功志甚多ヲ
録ニ尽シ難リ瀕死ノ事北越
ノ事記クハ書ニ載ル城廢ノ鶺鴒川神社ノ神領ト
者乃シ然ラ見ルハシ十八本在リ勝島二ノ丸ヲ福島三ノ丸ヲ枇杷島
ト云コト也本丸東西四十間餘南北六十間餘西
面ニ門櫓ノ跡三ヶ所アリ土居ハ五間ヨリ七間
程ノアト存ス西北ハ鶺鴒川ニ依リ二三ノ丸本
丸ノ北ニ在リ外堀ハ今ハ田所トナシ乎城ナリ

鵜川神社神主 布施但馬

但馬先祖

清行

孝元天皇第一王子大彥命ノ後胤謀議大夫安倍朝臣清行ノ末子千手磨ト云テ信濃國妙高山ニ高山今ト越金剛夜又ト云テ強盗ノ住シ人民ヲ傷害ニ十手磨并ニ嫡子清光天曆三年六月ニ命ヲ奉シ信州ノ下向シ以賊ヲ退治ス實ト云テ水内郡ヲ領シ布施ト云処ニ住シ布施ヲ氏トス千手丸六代ノ孫平四郎安倍清元從五位下越后守ニ補セラルト當國ニ奉リ当社ノ神主ヲ兼帶ス其後

代々受領相継系昌ニ見工事業ノ録ト云キナク

レハナニ略ス明曆四年以後吉田家内門弟トナリ今ニ至ハ初ニ載テハ政勝ヨリ判物玉ハリ是千日大夫ハ四十一代ノ善安ト云者天正十八年ノ文書ハ八社大夫ハ四十二代但馬守吉重後吉継ト云者ナリト云

在屋 作丸工門

作左工門先祖ハ関四郎五郎トニ泉州信田郡ノ八十リ延文年中本國ヲ去リ枇杷島村ニ住リ四代日清丸工門ト云者城主守佐善越中守孝忠ニ

仕、後、村ノ名主トナリ、今ニ至ル由緒ハ天明
年中洪水ニ遇リ水腐ス

可藏

一具足

一領

一鍵

一柄

農夫

代右三國先祖ハ往古ハ関ヲ屋八郎ト云ヒ山本
判官重隆ノ從也、タリ重隆討レテ本國河内ヲ流
浪ニ後武田家ニ仕、武田ヲ名乗、頼代ニ下

關ヲ屋八郎ノ謀ハ
山本判官ノ謀カ
山本判官ノ謀カ
今謀テ入ルニ

武田右近將監又ハ甚四郎仁九工門ナト、称ス
右近將監ノ弟ヲ関ノ屋源次郎ト云信玄ヨリ信
州川北中曾根ノ郷ニ百貫ヲ給セラハ、文書下信
州大室ニ居城スル故ニ又大室トモ称ス其弟善
次郎武田勝頼斷絶ノ後越后ニ来リ宇佐義家ハ
寓メ琵琶島善次郎ト名乗ル、按スルニ宇佐義家ハ
勝頼ハ天正十年ニ亡ビリ、勝頼亡テ越后ニ
弟ニハ宇佐義家ハ寓メル、理テ其止宇佐義
家猶存セハ琵琶島ヲ名乗ルハ、無礼トシレハ其事
有ハカ、恐クハ宇佐義絶クハ後ニ善次郎越
后ニ来リ、琵琶島ヲ領、景虎ヨリ文書ヲ下リ、景
知ニ玉ハル、似即ハ信州ニ在、景勝金津入國ノ時
時、書ハル、似即ハ信州ニ在、景勝金津入國ノ時

故アリテ浪人農夫トシテ
所藏文書

今度忠告の如く此類の依り信
州河北中ノ如く此等ノ文
之所以下垂る原致切可為非
妙く旨也 作也 件

件ノ上知ノ事
取セテ元ノ事

元禄十年丁卯 五月 源三九

園屋源次郎殿

陸奥ノ事及一節ノ河飲者其地
府懸米屋因北打作ノ由筆安小

少与之俸大切之条云云如小室宗厚
指城之条白之条云云核自者其若
此水清書款用公若法亦其亦事
仕至亦之世此有百おん在信也
房越之旨打及被合之思也仕立
行心之旨之漢一

高月令

系虎

陸奥邑清原次郎

免除地

鷲川神社 福泉寺 行通寺

端村

田井

本村ノ東ノ方三丁ニアリ村長一丁四方戸數二十軒

柳橋

本村ノ北ノ方二丁ニアリ村長三丁餘四方戸數八十二軒

Handwritten notes in the left margin of the right page, including a large character '恩'.

羽郡鵜川庄鏡之郷並ニ

岩上村

柏崎陣屋ノ東十五丁ニアリ田所ノ中ニ連リテ

八村ナリ村長東西一丁南北二丁戸數四十二

軒向背奇ヤラス四至ハ東ハ脚科所半田村ノ家

続キ西ハ琵琶島村ノ十八丁地畝迄四丁斗北ハ

比角村ノ五丁南ハ横山村ノ十四丁南北地界入

交リ詳ナラズ領主ノ次序柏崎ニ曰ヒ

堰

当村ノ養水ハ籍石川ノ藤井堰ノ流末ヲ受テ高

三百五十石餘ノ田ヲ養テハ村堰ヲ去ル一里
斗村ヨリ東ニアリ

定神社

社家

琵琶島村

布施伊豫

村ノ北一丁斗石ノ多キ小山ノ頂ニアリ貝ノ化
石処々ニアリトアリ昔鏡ノ沖ト云海ナリシ
證ナリトリ又音ト石山ノ側ニ井アリ井ノ側ニ
石高ノ男神鏡座シ玉ヒシ故ニト処ヲ岩神村ト
云フ即武内ノ三島石井ノ神社是ナリト云フ
部ニモ石井ノ神社見ヘタリ何ハト井イカナ
カ是ナルヲ知テ兩存ノ後考ヲ待ツト井イカナ
ル迄天ニモ洞ト云フ十位近コ口迄モ岩神ノ文

字ヲ村ノ名トハ為タリ

地塚

村内ニ字法光寺ト云処アリ往古寺地ニテ慶長
年中ハ寺曰郡下原村へ移リ普光寺ト号スハ地
塚ト云フハト地ハ大井十ハ地出テ人臣ヲ恠シ
タルトアリト寺ノ主僧歎シテ経塚ヲ築キ
トニヨリ地ノ災々ハタリ地ノ為ニワキリハ故
ニ地塚トハ言習ハシタリト也

時三分村也
天和年中檢地アリ
井田堰

劍野村小養水公山間ノ清水ヲ引ク養原新田ハ

古町村堰ノ餘流ヲサリ

三島社社地三十九間社家五十嵐出雲

村ノ北三丁ニ在リ

聖武天皇天平十三年ノ勅清太山社命富士淺間同

體川羽郡ハ近也郡名ニ本ノ三島ノ郡名モ

ハ社ノ縁出也ト云フ者石ノ社領アリ

今村内ニ大敷面油田子兒你等ノ字アルハ皆古

ノ社領ノ地ニソ宮殿等モ夥シカリトナリ中

頃衰微セシニ慶長三年塔秀政ヨリ寄附地アリ

元禄年中稲葉丹後守高田在城ノ時三島ハ越智

ノ先祖ノ神ナレハ宮殿造宮社領ヲ附シ

台聽ニ建シ神祇官領長上ト部兼雄卿ノ許容ヲ

得テ稲葉氏ノ三祖ヲ祀ハ祭日ハ三月十一日九

月二十六日

本社 二間ニ三間萱葺以相棟神體鉾

幣殿 九尺ニ二間尉斗葺

拜殿分五間三三間蓋口鼻箱棟

瑞籬三方二間幅二間三尺板斷葺

鳥居高廿二間幅二間

靈社六尺四方是ハ稻葉丹後守当社ヲ再興シ

元文三年稻葉氏ノ三祖ヲ祀リ本社ノ末ニ建リ

瑞籬三方二間幅二間

鳥居高廿六尺幅六尺

鴨ノ八幡宮社地九畝社家 五十嵐出雲

村ノ南一丁ハ幡ト云ルニアリ天治二年ニ勸清

ト云リ祭日ハ八月十五日也

社ノ石ノ小祠也

阿弥陀堂

境内九畝九步

村ノ北二丁ニアリ木佛座像長ハ二尺五寸

堂 四間三尺ニ三間

五十嵐出雲

出雲先祖ヨリ三島ノ社人ニテ櫻山ヲ氏トス為

九ト云人ヨリ国好ト云者マテ十五代ヲ姓ヲ

五十嵐ト改ム保安ノ頃室家破亡ノ系圖ヲ失ス

静輝貞輝ト云フ二人ノ頃僅ニ系脈ヲ継ノミテ

リシカ慶長以來又今ノ如ク相統ナシ来ルト云

三島社 鴨八幡 阿保院堂

免海地

...

...

...

...

...

...

...

...

川羽郡鷓川庄上條郷

鯨波村リニミナミ 塔野輪

柏崎陣屋リ西三十丁

村長リ東西五丁南北二丁

餘家並リ西側三列

戸數百軒リ西八東八

下宿村リ十二丁

地界リ斗西八

所科所谷根村リ三十丁

地界リ斗北八

海浜リ古代

領主リ新田家

ヨリ稲葉丹後守リ三

柏崎高田丹後

守跡又再リ元禄十四年

ヨリ所科所リ三

多し洞口八十二間斗深廿二十間斗往古ヨリ鬼
穴ト喚フ六
海岸ヲ隔ツル事五十間斗ニ小島アリ礁石ノ水
面ニ出テエヲ載ナリハ七ノ也并天ノ小祠ヲ安
道入

前川橋

村端ニアリ土橋九間幅二間往還筋ニ架クハ
橋ナリ

養水

前川ノ流ヲリ、キ田処二百二十石ノ養水トス
其餘田亦ハ皆溪澗ノ水ヲ以テ養テ、末山牧茶
社社地四方神明言社地四方社家上田右仲鳥
村ヨリ南一丁ニアリ由緒ハ慶長十四年火災ニ
逢テ舊祀等悉リ焼トス言傳ニハ

仁賢天皇

社 二間五尺ニ二間

拜殿 三間ニ三間三尺

鳥居 高十一丈幅九尺

龍泉寺

境内南北四十間
東西二十間

村ノ南十五間隔テ山ニアリ真言宗ニテ紀
州高野山竜光院ノ末山ナリ山ヲ金峰山院ヲ光
明院ト云フ同基ハ天文十三年順慶法印ト云者
ヨリ草創ス
客殿ニ九間ニ七間萱葺本尊唐立藏木佛座像
長ハ八寸八法ノ作ト云傳ハ
妙智ノ寺境ハ南北ニテ同同ノ寺也山ヲ普門山院
ト云フ同基ト云フ同國朝日村朝日寺ノ末山禪宗
寺ノ同基ト云フ同輝鹿ノ伯母ト云フ同山

歸國宮

八源巨ト云僧ナリ少將ノ戒名ヲ慈照院光堂
妙智ト云フ院号寺号皆其文字ヲ用テ而作ル
客殿ニ十二間ニ八間萱葺本尊釈迦木佛座像長
ハ一尺九寸行基ノ作ト云傳ハ
庫裡 八間三尺ニ六間三尺
觀音堂 九間ニ五間三尺正觀音木佛立像長ハ
二尺五寸行基ノ作當國札所ノ第四番ニアリハ
薬師木佛座像長ハ一尺安阿弥ノ作ト云傳ハ
所藏文書三冊
夕之地ニあり之内々々人知人不知ノ事ナリ

上喚ナリ十二代總左工門謙信ニ隨ニ出陣入名
ヲ玄鶴ト改ム功アリテ感状ヲ得夕リ勤ニ慶長
年中急火ニ逢ニ兵器燒亡今僅ニ甲冑一領刀ニ
柘櫓三櫓ヲ存ス民間ニ下リテ代々庄屋役ヲ勤
ム後大久保石見守佐州ノ金山開墾企アル時
總左工門供ヲ為テ佐州ニ渡リ金山成誌ノ後依
州ニ至ル者ハ總左工門手形ヲ出シ佐州ノ番所
ヲ通ニ依州ヨリ歸ル者切手ヲ持来リ着所ノ上
総左工門ハ納ム事也夫ヨリ世々領主ノ礼遇
ニ高仰下ル氏庄屋ヲ勤メテ今ニ至ル

所藏文書

今ニ度於信口志んり及んぬ
馬廻リニ付ハ事々比新ハ今
ハ所ニ寄ル者也依ハ件

云々

景虎

下條玄祐

傳馬ノ定ニ通内一通柘崎ノ条ニ記者ト同レ
ハ此ニ有リ

定

一 河内 竹馬 上様は生年より其の御代に
 了御政のあり申す
 一 故に府中より御了り交り所しる御
 又政にてあり申す
 一 多形にせりて函の者打ちし不事御擧大
 候より申す
 一 御りまゝにお供りし御事申す
 一 不可申す
 一 入本入字の事
 一 お海に御事申す

一 故に御事申す
 一 何よりよし御事申す
 一 河内中御事申す
 一 如く申す御事申す
 一 申す御事申す

申す御事申す

按二慶長
 年録越
 後上院付
 殿所先
 申す御事
 守山御事
 八正御事
 金和御事

申す御事申す
 申す御事申す
 申す御事申す
 申す御事申す

平次孫子
トアリ是
事ナハ
し於崎
条ノ文書
ニ載リ
人々モ租
口シ

産物

雪海苔 蛸 常帰 黄連 蕨 紫蕨 薯蕷

免除地

神明 龍泉寺 妙智寺

菰村

孝村ノ乾ニアリ村長ト東屋一丁餘南北四丁餘

戸数五十三軒向背齊ヒカテ又ハ別荘計テ凡

十二神社 社家 土田右仲

村内ニアリ句々更智命ヲ祀ル建久三年ノ遷座

ト云傳テ茲ニ四神東ニハ是ノ神ニハ

社九尺ニ二間ニテ

長昌寺 境内東西間二間

村西十間斗山キワニアリ禪宗ニテ山ヲ白雲山

院ヲ大慈院ト云フ本村妙智寺ノ末山ナリ開基

ハ天正元年開山ヲ長益和尚ト云フ

名敷 六間三尺ニ五間本尊十一面觀音本佛立

山ノ下

町中

像長七寸弘法ノ作ト云傳不一画題本村ニ
庫裡ニ五間三尺ニ四間萱葺ト云

列ノ入免除地ト云本村カ故自ノ木山ニノ別墓

十二神社山長宮寺戰宗ニノ山ニノ白雲山

塔野輪

神北ニノ山ニノ

本村ノ北八下斗ニアリ村長ノ東西一丁餘南北
十八間戸敷十四軒東ニ山ヲ負ヒ西ハ海ニ臨ヒ
甚狹隘ノ地ニ家屋尙背脊カク及スニ岸ノ高氣

朱慶硯石

坂本ニノ山ニノ

塔野原ト云処ニアリ高サ一丈ノ法華塔アリ

所ニ并慶硯石ト云石アリ平面三尺四方ニナ中
央四ノ梵文アリ其名ヲ得夕ノ所以ハ詳ナラズ
然レテナカウ東北ノ國天造自然ノ物ヲ見テハ勤
スレハ其任并慶十トハ假托ノ物ニハ物ヲ見テハ
等モ亦アリ類ナルカ

